

Minami Kyushu University Syllabus									
シラバス年度	2026年度	開講キャンパス		都城キャンパス		開設学科		子ども教育学科	
科目名称	教科教育法（生活）					授業形態		講義	
科目コード	750094	単位数	2単位	配当学年	2	実務経験教員		アクティブ ラーニング	○
担当教員名	園田 修司							ICT活 用	○
授業概要	○身近な人々・社会・自然及び自分自身を教材とする生活科について、そのねらいや内容などについて学ぶとともに、生活科の概要と特色を学ぶ。 ○カリキュラムに関する基礎理論の学習を踏まえ、生活科のカリキュラム開発についての基本的な知識を理解し、教科の特色を生かしたカリキュラムを考える。 ○具体的な実践事例を紹介したり、実際に教材を作成させたりして、生活科の授業を構成するための教材の大切さを考える。 ○1単元の指導計画及び1単位時間の学習計画を考え、生活科の学習指導の流れと特色を学び。 ○現場の教員による実際の授業に関する講義を通して、具体的な活動や体験を通した探究的な学びの授業観を醸成し、教育現場で役立つ授業づくりにつなげる。 ○生活科の趣旨や学びを他教科及び3学年以上の授業への生かし方を学ぶ。 ○幼児教育と初等教育をつなぐスタートカリキュラムに対応した授業である。幼稚園や保育所と小学校の連携の在り方について、生活科の意義と役割との関連で講義を行う。								
関連する科目	○保育・幼稚園教育に関する内容を受講しておくことが望ましい。 ○各教科、道徳科、特別活動、総合的な学習の時間に関する内容を学ぶことが望ましい。								
授業の進め方 と方法	○アクティブラーニング形式での授業を基本とし、学生自身が調べる活動、学生が発表する活動、さらには、グループで話し合ったり、体験したりする活動を取り入れる。 ○各授業において、パソコンを活用してプレゼンテーションを中心とした講義を行う。 ○実際の生活科の授業の動画を提示したり、現職教諭による講義を取り入れたりして、生活科の授業をイメージできるようにし、生活科の特色を学ぶようにする。 ○授業の中でテーマを設定したり、模擬授業を行ったりする中で、学生がタブレットPCやスマホを活用して調べる活動を取り入れる。								
授業計画 【第1回】	○ オリエンテーション 生活科の講義について、1年間の内容等について知る。 ○ 生活科設定の意義と歴史 生活科が誕生した背景を知り、生活科の意義と特色を学ぶ。 ○ 生活科の教科目標と学年の目標 生活科の目標には、教科目標と学年の目標があることを知り、まずは教科目標についてその内容と意義を学ぶ。								
授業計画 【第2回】	○ 生活科の教科目標 教科目標についてその内容と意義を学ぶ。								
授業計画 【第3回】	○ 生活科の学年の目標 学年の目標についてその内容と意義を学ぶ。								
授業計画 【第4回】	○ 生活科の学年の目標 学年の目標についてその内容と意義を学ぶ。 ○ 生活科の内容 生活科の内容は9項目あり、どのような内容で構成されているか学ぶ。								
授業計画 【第5回】	○ 年間指導計画の作成 生活科の特色を考えて生活科の年間指導計画を作成及び配列の在り方を学ぶ。 ○ 学習指導過程 生活科の特色である「児童の思いや願いを生かすこと」「具体的な活動や体験」「児童の気付き」をどのように生活科の授業で取り入れていくかを学ぶ。								
授業計画 【第6回】	○ 教材の作成 2年生の単元「うごく うごく わたしのおもちゃ」で作製するおもちゃを実際に作製する。 学生自身が作成したいおもちゃに関する資料をGoogle等を使って活用する。								
授業計画 【第7回】	○ 模擬授業の進め方 ○ グループで模擬授業の学習指導計画の作成① 模擬授業の進め方について説明した後、グループごとに教科書を参考に模擬授業の単元を決定し、1時間の学習指導過程を作成する。 模擬授業の活用する提示資料などをGoogle等を活用して作成する。								
授業計画 【第8回】	○ グループで模擬授業の学習指導計画の作成② グループごとに、一つの単元の1時間の学習指導過程とそれに活用する教材を作成する。 お互いに模擬授業の在り方について考えを出し合うことで協働的に学び合うことのよさを学ぶ。 模擬授業の活用する提示資料などをGoogle等を活用して作成する。								
授業計画 【第9回】	○ 生活科の授業の実際（現職教員による生活科の授業の講義） 高原小学校の態勢と弘指導教諭の実践を学ぶことを通して、生活科での子供の様子や授業の在り方を学び、生活科の特色や面白さを知る。								
授業計画 【第10回】	○ グループで模擬授業の学習指導計画の作成③ グループごとに、一つの単元の1時間の学習指導過程とそれに活用する教材を作成する。 お互いに模擬授業の在り方について考えを出し合うことで協働的に学び合うことのよさを学ぶ。 模擬授業の活用する提示資料などをGoogle等を活用して作成する。								

授業計画 【第11回】	○ 模擬授業の実際① グループごとに模擬授業を行い、模擬授業の良かったところ、工夫しているところ、改善したいところなどを出し合い、生活科の授業について学ぶ。
授業計画 【第12回】	○ 模擬授業の実際② グループごとに模擬授業を行い、模擬授業の良かったところ、工夫しているところ、改善したいところなどを出し合い、生活科の授業について学ぶ。
授業計画 【第13回】	○ 模擬授業の実際③ グループごとに模擬授業を行い、模擬授業の良かったところ、工夫しているところ、改善したいところなどを出し合い、生活科の授業について学ぶ。
授業計画 【第14回】	○ 指導計画の作成と内容の取扱い 以下の点に留意することを学ぶ。 ・主体的・対話的で深い学びの実現を図ること ・他教科等との関連を図ること ・3学年以降の教育への接続を考えること ・幼稚園・保育所と小学校との連携を図ること
授業計画 【第15回】	○ 単元計画の作成 単元計画を作成する場合のポイントについて、低学年の発達段階や地域の特色等を考慮して作成することを学ぶ。 ○ 学習指導の進め方 児童の思いや願いを生かし、具体的な活動や体験を取り入れた授業を工夫することを学ぶ。 表現活動や児童同士の交流等を取り入れ、児童の気付きを深めるようにすることを学ぶ。
授業の到達目標	授業の達成目標 1 小学校低学年に「生活科」が導入された経緯や意図を基に、生活科の目標や指導内容、指導方法等に関する基本的に事項を理解すること。【知識・理解】 2 生活科の特色を知り、生活科の授業の概要を理解すること。【知識・理解】 3 簡単な模擬授業を実施することで、生活科の授業の特色である、児童の思いや願いを生かすこと、児童が主体的に活動し深い学びにすることを学ぶこと。【思考力・判断力】 4 教育者として求められる資質や能力を学ぶとともに、教育者としての自覚及び意欲を身に付けるようにすること。【教員としての
学位授与の方針 (DP)との関連	1.知識・理解を応用し活用する能力-(1)／2.汎用的技能を応用し活用する能力-(1)／3.人間力、社会性、国際性の涵養-(1)／3.人間力、社会性、国際性の涵養-(2)／3.人間力、社会性、国際性の涵養-(3)
授業時間外学習【予習】	○ 次回の講義内容を把握する。(30分程度)
授業時間外学習【復習】	○ 授業後には、授業で活用した資料の原文を確認すること。(30分程度) ○ 授業終了後に示す課題についてレポートを作成する。(30分程度) ○ 授業の初めに、前回の学習内容に関する小テストを数回実施するので復習をしておくこと。(30分程度)
課題に対する フィードバック	○ 小テストは評価後、返却及び解説をする。 ○ 定期試験は試験後に解説をする。
評価方法・基準	○ 以下の項目に基づいて評価する。 (1) 小テスト、レポート等(30点) (2) 定期試験(70点) テキスト
テキスト	○ 小学校学習指導要領(平成29年告示)解説 生活編 文部科学省
参考書	○ 小学校学習指導要領(平成29年告示) 文部科学省 ○ 小学校教科書 生活 ○ その他、必要に応じた図書を紹介
備考	